



若林みきおの 議会だより

2009年4月発行
第2号
若林幹雄(東御市議)
東御市滋野乙2724
Tel/Fax0268(62)2070
携帯:09047280922

春本番です

いよいよ桜の季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

早いもので私も議会を4回経験しました(定例会2回、臨時会2回)。とりわけ3月議会は初の予算議会ということもあり、大変勉強になりました。

世の中は百年に一度の大不況のまっただ中です。多くの若者が職を失い自信をなくしています。一方、お年寄りもたび重なる負担増で、将来に対し不安を感じています。まさに行政に対して安心と安全が求められています。

そんな中、子育て世帯にとって朗報があります。この4月から小6までの医療費の無料化が実現します。妊産婦検診も14回まで無料に、院内助産所も来年1月に開設され、安心して出産できる体制が整います。

一方で国の緊急経済対策として話題の多かった定額給付金と、多子世帯を応援する子育て応援特別手当が支給されます(3ページ参照)。

どんなに闇が深くても、明けない夜はないと言います。明るい明日を信じ頑張って行きたいと思えます。

最近インターネットで「ブログ」を始めました。日頃の雑感を綴っています。どうぞご覧ください(4ページ参照)。

いよいよ畑
仕事が始ま
りますね。



目次

- ・ 春本番です 議員日誌
- ・ 3月議会—安心・安全のまちづくりを
- ・ 議会雑感—予算は125億700万円
- ・ 院内助産所ってどんなところ? 編集後記

議員日誌(1~3月)

1月

年明け早々「議会だより」創刊号発行。お手伝いもいただき、2週間かかり配り終えました。12日には滋野地区の区長会の引継ぎ、19日には上小地区の議員研修会がありました。

2月

4・5日に子育て支援による商店街活性化の視察のため名古屋に行きました。6日には不況対策臨時議会があり、緊急経済対策のための予算を可決。12日に埼玉県鶴ヶ島市で議会改革について、翌日は福島県広野町で議会報について視察。16日には議会改革について議員研修会、19日には群馬県の嬭恋村との交流会がありました。

3月

2月24日から3月議会が始まりました。6日に一般質問を行いました。11日から13日まで社会福祉委員会、16日に予算委員会があり、19日の本会議で予算案が可決・成立しました。17日には北御牧中、翌日は滋野小、25日には滋野保育園の卒業・卒園式がありました。子供達の成長が感じられる式典でした。ご家族の皆様おめでとうございます。

お困りごと相談所

(若林 幹雄)
お困りごと相談所を開設しました。
お気軽にご相談ください。
連絡先 東御市滋野乙2724(中屋敷)
Tel・Fax 0268(62)2070

■ 3月議会—安心・安全のまちづくりを



不況は一層深刻で、景気はますます落ち込んでいます。なかなか先が見えない状況です。いまこそ行政の出番です。私は、3月議会では3点について市長の見解を聞きました。

不況・雇用対策については市の窓口のあたたかな対応を、介護保険料引き上げでは低所得者への配慮を求めました。舞台が丘再開発では、市民の声を聞いて進めてほしいこと、合併特例債の利用は慎重にしてほしいと述べました。

不況・雇用対策への取組み

いまハローワークは超満員
あたたかな対応こそ求められている

介護保険料の引き上げ

低所得者層へどう配慮したか
お年寄りには不安を抱えている

若林「景気の落ち込みは深刻だ。上田地域の有効求人倍率は0.48倍で、県の0.61倍を下回り県内でも最悪だ。雇用の状況についてどのように認識しているか」

産業建設部長「きわめて厳しい。派遣切りは3月末までに168人の規模となる。緊急融資や雇用創出事業に取り組んで行く」

若林「先日ハローワークに行って来た。順番待ちしている人達で入り口まで超満員だった。みんな様に押し黙ったまま。外国人の方が集団で来ていた。私は胸が締め付けられる思いがした。行政が責任を果さなければならない。しかし現在の市役所には緊急窓口の表示がない、支援策もわかりにくく一ヶ所で用事が足りない、外国人への対応もまだまだ。住民の立場に立った温かな対応をお願いしたい」

市長「不十分な点については対応したい。対策が見えない、対応がにぶいという点は私の責任だ。なすべきことをしていないという点は真摯に受け止めたい」

産業建設部長「市独自の緊急生活支援融資制度がある。ぜひ利用していただきたい」

この後、市役所のロビーに大看板が設置され、不況対策のチラシが置かれるようになりました。

若林「この4月から介護保険の第4期が始まる。この間団塊の世代が65才を迎え、4人にひとりが65才になる。今回保険料年額4万7700円から5万200円に2500円の引き上げが提案されているが、低所得者層への負担軽減についてどのように考えているのか」

民生福祉部長「高齢化の中で介護給付費は2倍になっている。基金から5500万円を繰り入れ、引き上げ幅を抑えた。段階区分により低所得者層に配慮した。今後財源確保が課題。国の政策を見守りたい」

若林「私自身家族の看取りでは介護保険に大変お世話になった。大変だが支えて行かねばならない。今回の改定でご苦労されている介護従事者の待遇改善が図られるのか。また自治体によっては保険料を引き下げたり、一般会計から繰り入れたところもあると聞くがどう考えるか。負担増の中で介護保険料の延滞も増えることが心配されるが実態はどうか。その際介護サービスの利用を制限するのか」

市長「今回の改訂で介護報酬は2.8%引き上げとなる。今回保険料を下げた所はもとも高かった所だ。東御市の保険料は周辺自治体と比べ低いほうだ。このため一

般会計からの繰り入れは考えていない」
民生福祉部長「介護報酬の引き上げを介護従事者の処遇改善に結び付けたい。介護保険料の段階区分を現行7段階から増やすよう検討したが、上位段階の負担が過大になり問題があった。滞納はこれまでに187名990万円。うち介護認定者は5名、4名がサービスを受給。話し合っただけで分割納付していただいております。利用制限はしていない」



職を求める人で混み合うハローワーク

舞台が丘再開発について 市民との協働が求められている 合併特例債は慎重に

若林「市長は施政方針で『住民と行政の協働』をかかげている。舞台が丘再開発プロジェクトがそうした考えで行われることを期待する。今後の進め方、合併特例債についてどう考えるのか。特例債も借金であり慎重にしなければならないと考える」

市長「舞台が丘再開発プロジェクトは市民と対話しながら進めていく。耐震・老朽化・障がい者への配慮・狭隘などの課題がある。策定委員会でたたき台を作成しガラス張りの中で作成する。合併特例債は慎重に行い、必要最小限の事業としたい。しかし特例債の期限もあと5年だ。将来のために建替えなければならないものに対しては活用したい」

議会 雑感

21年度予算は、総額125億700万円 税収の落ち込みで8.5%の減となりました。

平成21年度予算は不況の影響で法人税が落ち込み、国からの地方交付金もダウン。前年度比8.5%減の厳しい内容となりました。

そうした中でも子育て世代を応援する施策に重点配分。医療費の無料化は小3から小6まで拡大(今後段階的に中3まで拡大)。妊産婦検診14回まで無料化、院内助産所の開設にも取り組んでいます。このような点が評価され、予算は議員全員一致で可決・成立しました。

▼ 今年度実施される重要施策

- ・ 市民病院への院内助産所の開設
- ・ 小学校6年生までの医療費の無料化
- ・ 舞台が丘再開発基本構想の策定
- ・ 羽毛田バイパスの調査、海野バイパスの設計
- ・ 地産地消を通じた食育の推進
- ・ 田中・祢津に続き和に児童クラブを開設
- ・ 24時間安心し暮らせる福祉体制の整備
- ・ 小学校区単位の協働のしくみづくり
- ・ 防災のためのコミュニティFM放送の研究

■ 定額給付金支給

定額給付金は3月下旬に各ご家庭に申請書を郵送、4月1日から受付が開始、中旬から給付金の振込みが開始されます。大人は1万2千円、18才以下と65才以上は2万円。

これに合わせて商工会では市内の商店で使用できるプレミアム商品券を4月26日から中央公民館で発売します。1万円で1万1千円分のお買い物ができます。

■ 子育て応援特別手当

国の施策で、多子世帯の子育て負担に対する援助として「子育て応援特別手当」が支給されます。対象は小学校就学前3年間に属する子(平成14年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた子)で、第2子以降の児童で、一人につき3万6千円支給されます。

院内助産所ってどんなところ？

花岡市政の公約であった院内助産所がいよいよ来年年明けからスタートします。しかし、助産所といってもピンとこない方が多いのではないのでしょうか。そこで院内助産所とはどのようなものかお知らせいたします。

■ 助産所とは何か？

これまでお産と言えばお医者さんによる病院での分娩でした。陣痛促進剤や帝王切開がごく普通に行われています。そんな中で、助産師さんによる自然分娩が注目されています。出産は病気ではありません。お産をする力はおともと妊婦さんに備わっています。

そうした妊婦さんをサポートするのが助産師さん。豊富な知識と経験で妊婦さんの体と心の状況をキャッチし、妊婦さんが安心して分娩できるように産まれるまで付き添います。医療行為はできませんが妊婦さんを励まし、出産後はお乳の出し方など様々なケアを行っていただけます。



しっかりママの顔を見えています

■ 助産院での出産とは？

院内助産所でお産するためにはまず市民病院産婦人科で受診していただきます。その経過がすべて順調な方が対象になります。条件が合わない場合には自然分娩は適しません。

しかし自然分娩と言いつつも、もし出産時に異常が生じた場合のサポート体制も不可欠です。このため提携病院との日頃から密接な連絡と情報の共有化が必要です。市民病院では提携先病院をお願いしている段階です。

■ 助産院音々(ねね)の視察

先日、社会福祉委員会で御代田町の院内助産院「音々」(ねね)を視察しました。助産師3名で利用者8床、月に2～3件のお産があり、3年間で53人の子供達が生まれています。家族の立会い分娩も行っています。中には南佐久から来た方もおり、こだわりをもったお産をしたいという方が多いそうです。大切にしているのは妊婦さんとの信頼関係。アットホームな雰囲気作りに心がけているとのことでした。

こうした家庭的なお産がわがまちでもできることを願っています。

編集後記 一ご意見・ご感想をお寄せください。

- ▼ 議会だよりを発行したところ、多くの皆様からお手紙やお電話をいただきました。お会いした時など「読んだよ」とお声かけいただき、とても勇気づけられます。
- ▼ 北御牧の崖に倒木がひっかかって危険だとのお電話がありました。総合支所をお願いし撤去していただきました。ご要望などありましたらお気軽にお電話ください。
- ▼ 先日「相談にのってほしい」とのお電話がありました。議会だよりをご覧になったというのです。早速お話をお伺いしました。

- ▼ 国と市役所から補助金で、わが家の太陽光発電がスタートしました。毎日発電しているか見るのが楽しみになりました。
- ▼ ブログを始めました。携帯電話からもご覧いただけます。ご意見をお寄せください。

http://blog.goo.ne.jp/dragonfly_nagano/
(「若林みきおの議員日誌」としても検索できます)

- ▼ 今後も皆様のご要望実現のために精一杯取り組んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。